

森林モニタリングの最近の情勢について

森林総合研究所 温暖化対応推進室長
平田泰雅

2012年1月 カンボジア・コンポントム州での空中写真

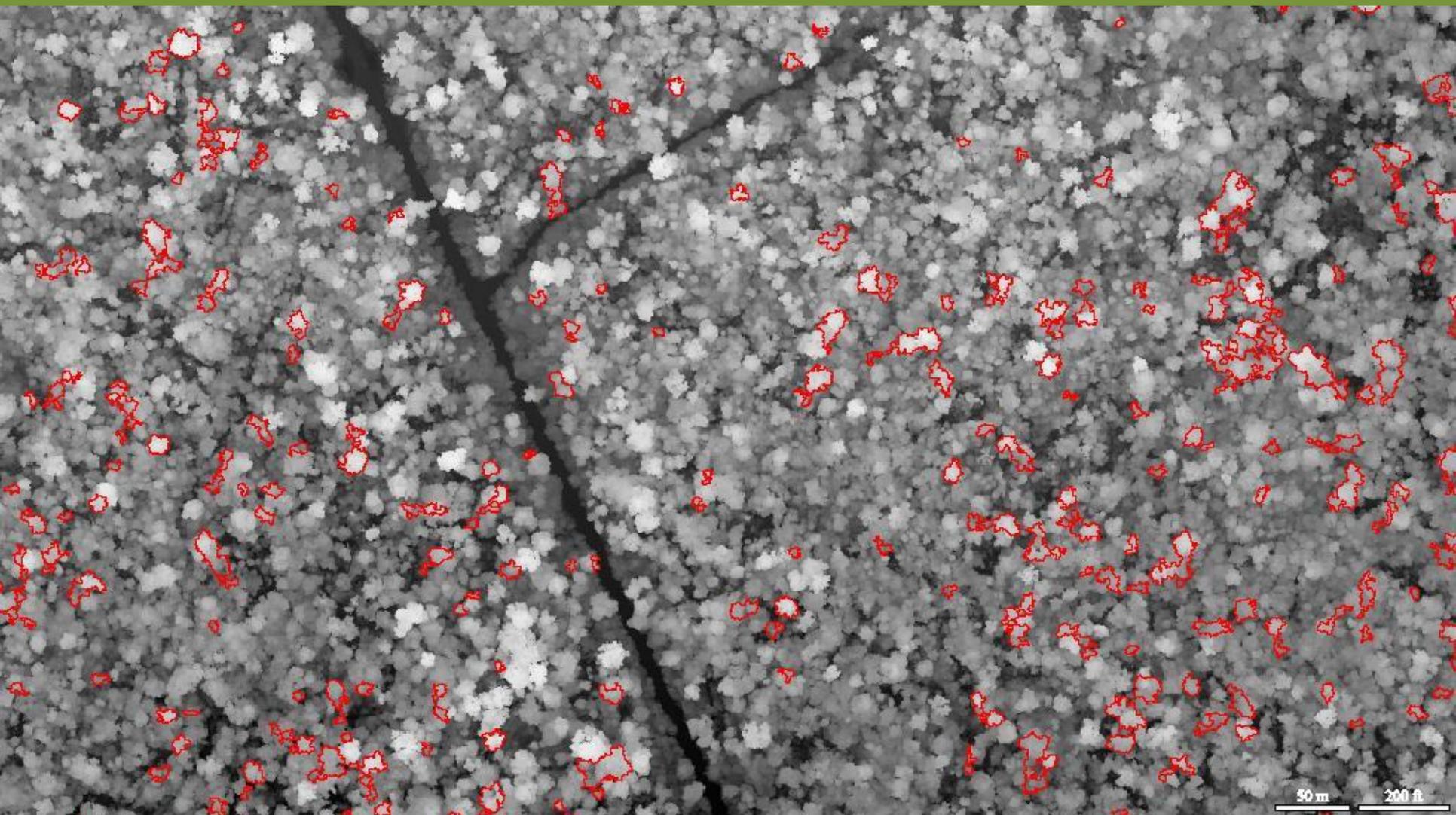


50 m 200 ft

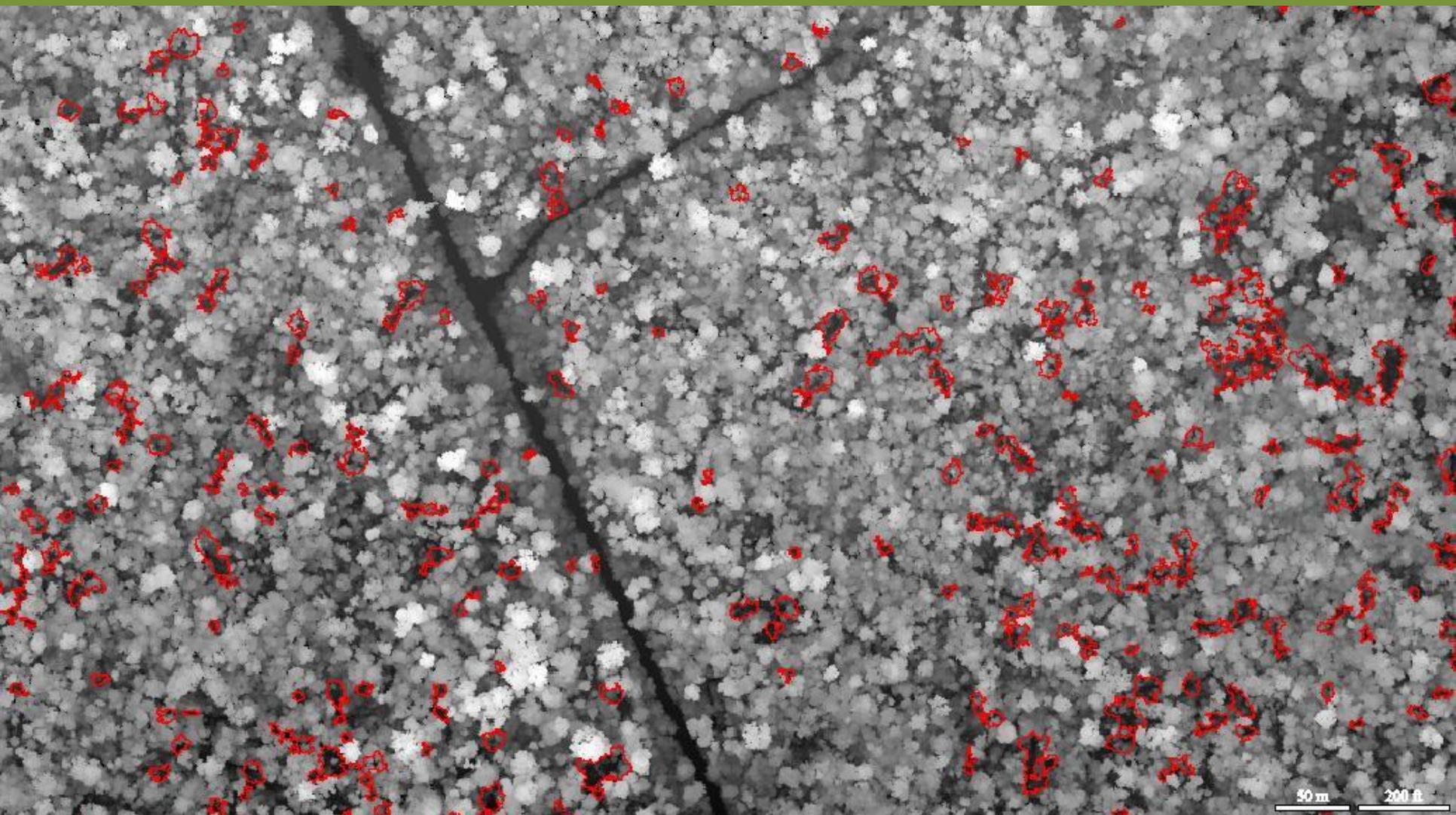


独立行政法人 森林総合研究所REDD研究開発センター
Research and Development Center
REDD Japan

2012年1月 カンボジア・コンポントム州での航空機LiDARデータ



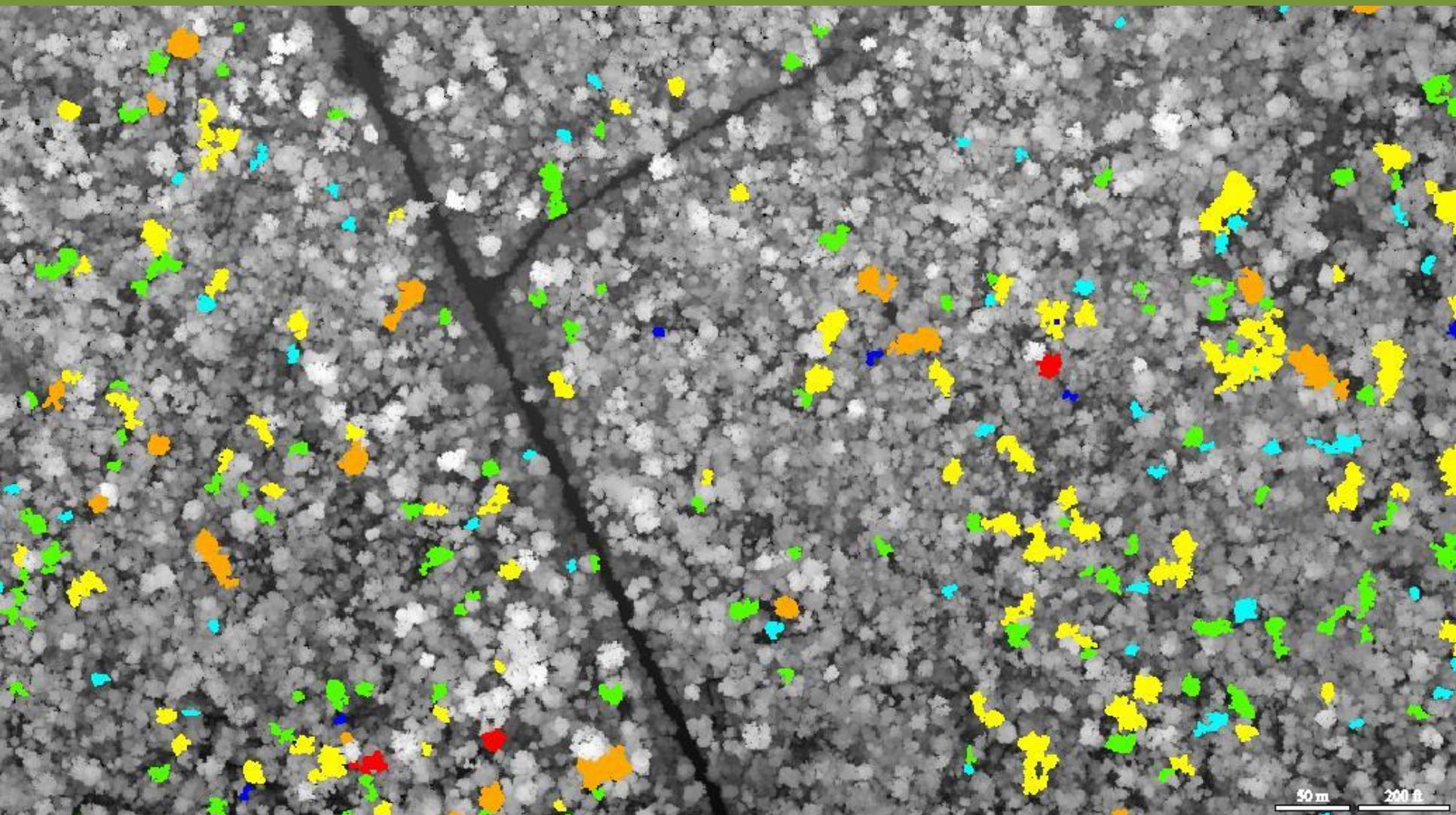
2014年1月 カンボジア・コンポントム州での航空機LiDARデータ



独立行政法人 森林総合研究所REDD研究開発センター

REDD Research and
Development Center
Japan

航空機LiDARから抽出された伐採木とその樹高



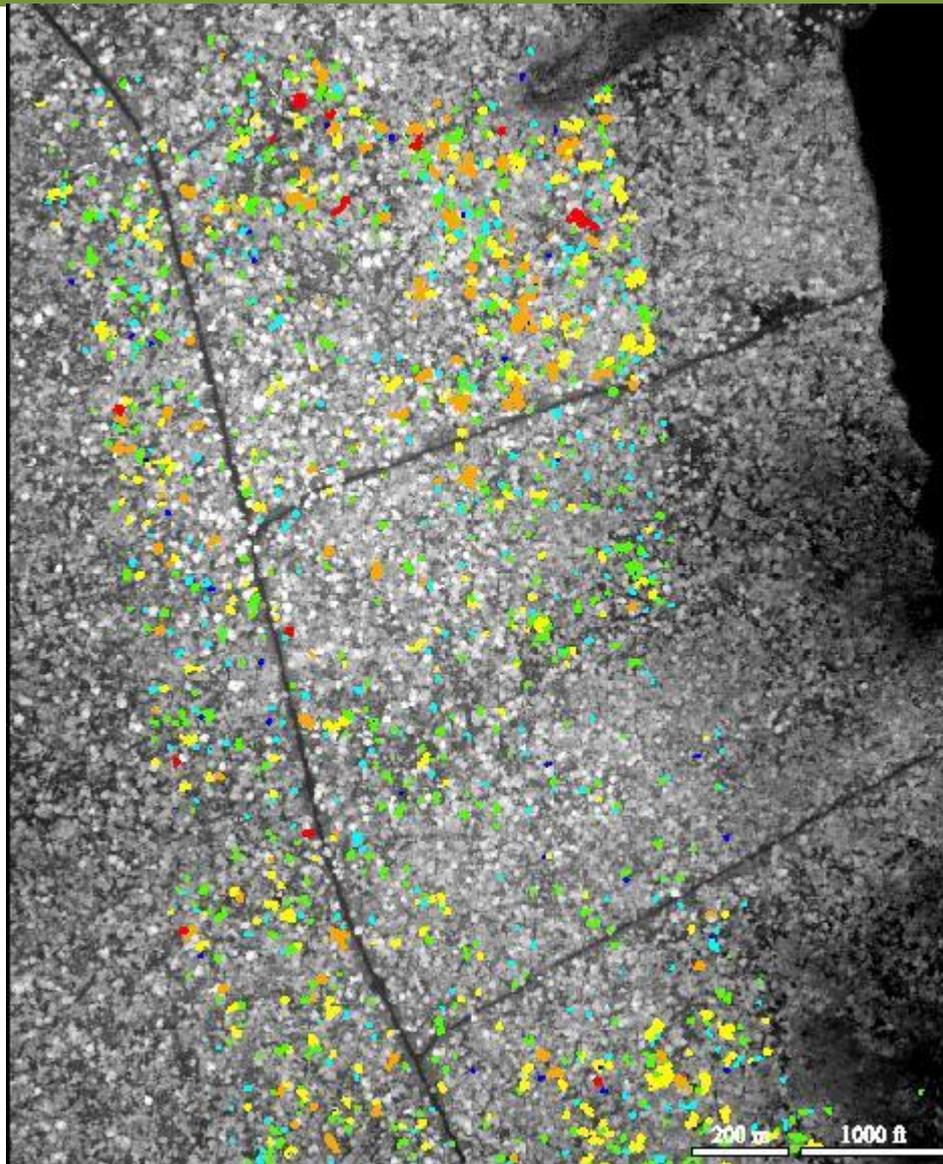
less 20 25 30 35 40 more



独立行政法人 森林総合研究所REDD研究開発センター

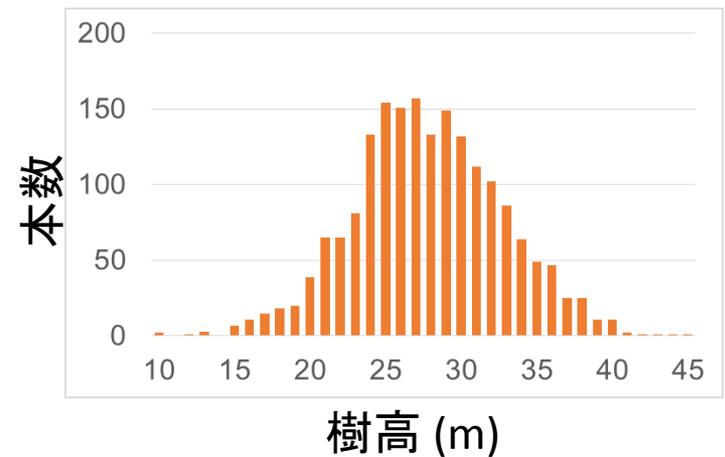
REDD Research and
Development Center
Japan

2012年1月から2014年1月に伐採された樹木の分布



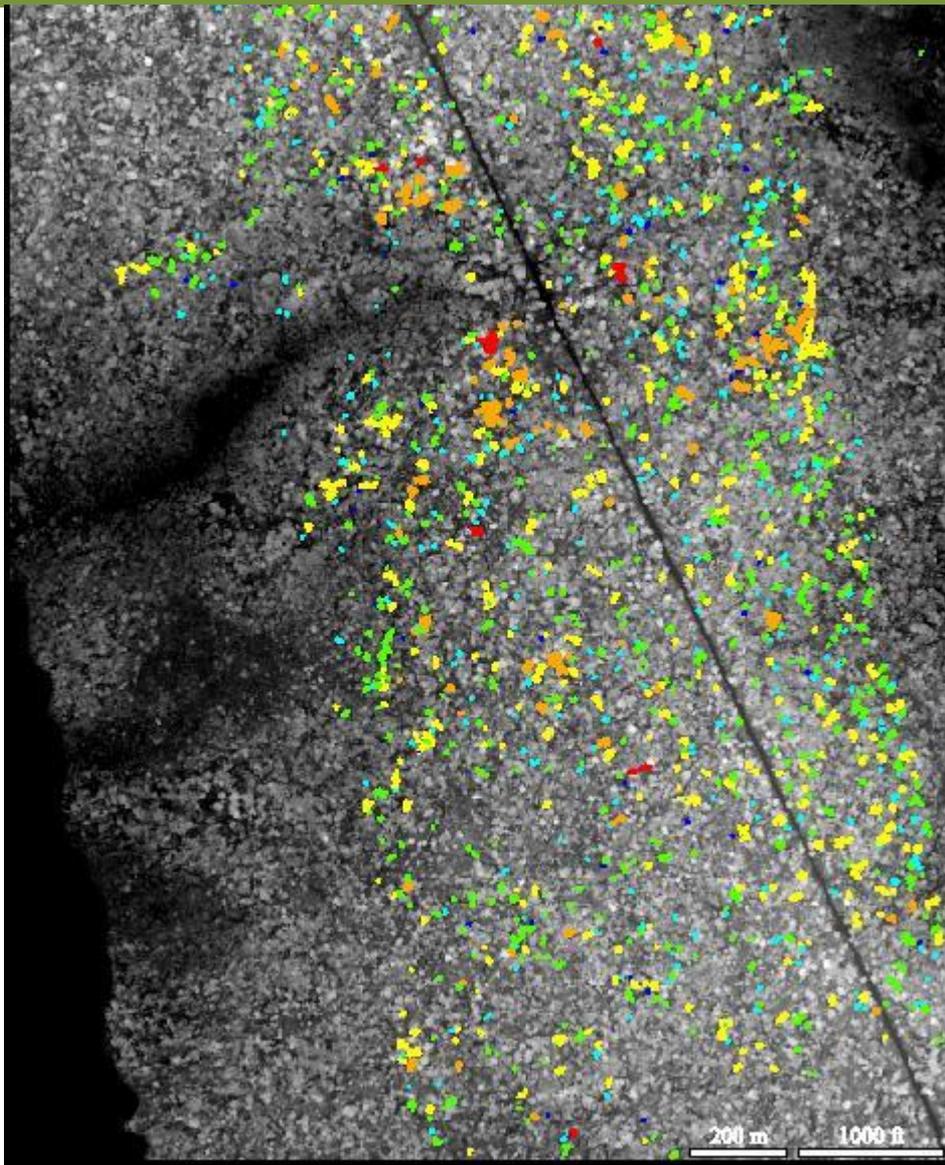
伐採された樹木の本数
187.6 本/km²

伐採木の樹高分布
(10km²あたり)



less 20 25 30 35 40 more

2012年1月から2014年1月に伐採された樹木の分布



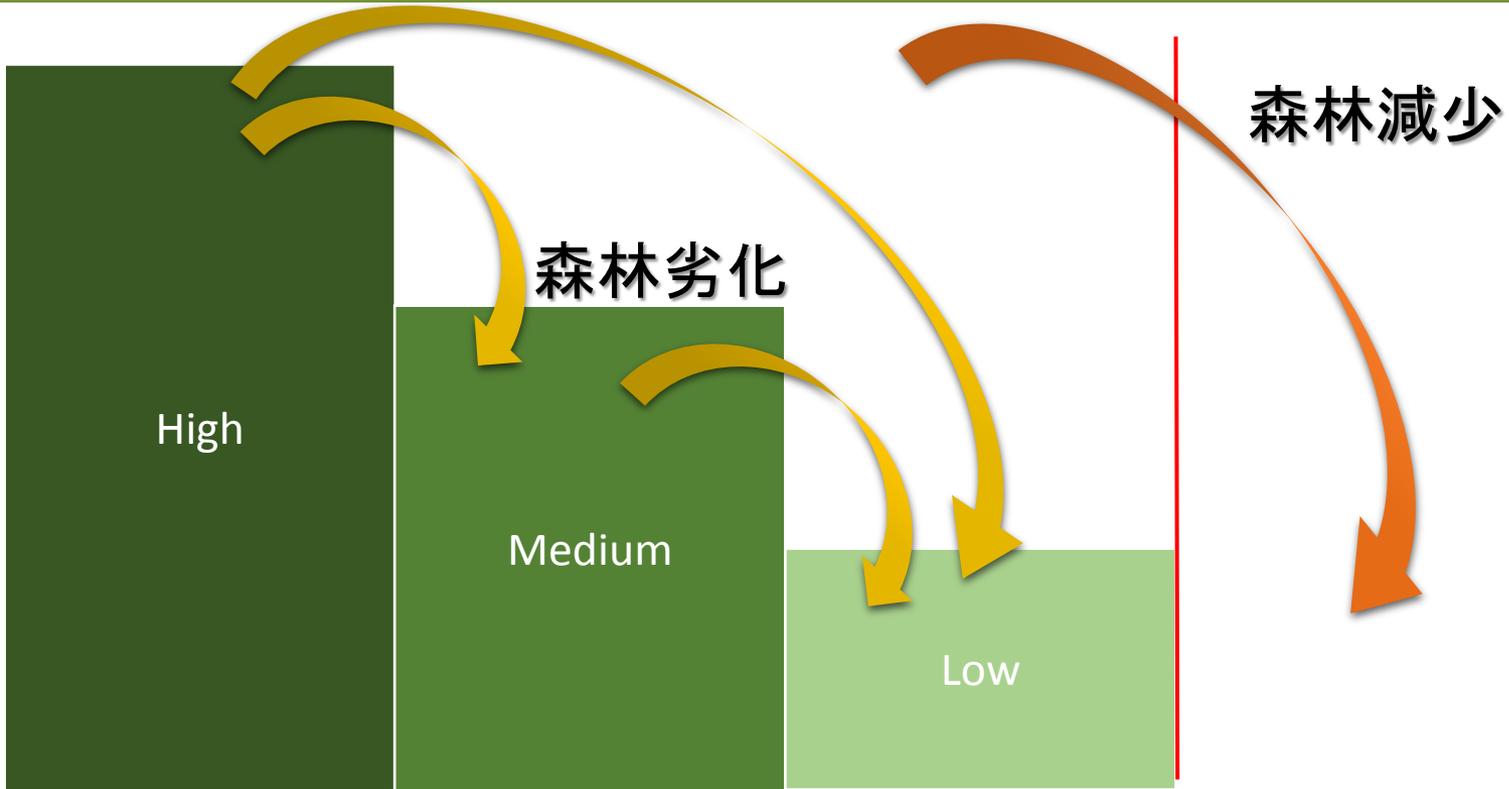
less 20 25 30 35 40 more



独立行政法人 森林総合研究所REDD研究開発センター
REDD Research and Development Center
Japan

森林劣化の考え方

単位面積当たりの炭素蓄積



キーメッセージ

- 面積推定（活動データ）のためのモニタリングと炭素蓄積推定（排出係数）のためのモニタリングがある
- 技術は日進月歩。しかしデータ取得は過去には遡れない
- 対象地（国）に適したモニタリング手法を選択する必要がある
- コストを考慮したサンプリング手法が重要